

# 一関楽走会

2012年  
7月号  
No.456  
発行責任者  
浅沼 善治  
Tel24-3250  
09048827059



焼石岳のミズバショウ(上)と  
せせらぎに咲くチングルマ  
(下)



## 梅雨入りの季節を迎えて

会長 氷室一彦

梅雨入りで蒸し暑さを感じる季節になりました。「走る仲間の会岩手県交流会花巻大会」が7月1日(日)花巻走友会主催で行われます。今年もみんなで参加して盛り立てましょう。

先日、名誉会長亀谷一男様が逝去されました。先生は昭和四十六年から一関楽走会のリーダーとして携わって来られました。走るの「自分自身のため」、「競うこととはしない」、「疲労回復のため」、「入浴、寝酒、十分な睡眠」をモットーに生涯ジョギングを続けられ、すでに、走行距離は十三万キロに達していました。健康マラソンを実践し百歳の長寿を全うした先生は一関楽走会の誇りです。我々は先生の遺志を継ぎ、一関楽走会魂と健康な体の維持を推進していきたいと思っております。

なお葬儀には会から生花・弔電を奉奠し、また多くの会員が通夜・葬儀に参列され、焼香し最後の別れを致しました。

## 第1回役員会開催しました



6月6日山目公民館に於いて今年度第1回役員会を開催し、総会以降の活動報告と今後の事業について話し合いました。

1. 総会以降の活動報告 春季フルマラソン・市民マラソン兼お花見・例走会 実施
2. 走る仲間の会岩手県交流会「花巻大会」 7月1日(日) 瀬美温泉  
参加者 24人 貸切バスで一関レディースチーム5人も同乗して行きます。  
アトラクションは一関レディースさんと合同で「くるくる音頭」を踊ります
3. 12Hピースラン&69ウルトラマラソンとビヤガーデン 8月9日 6:00~18:00  
磐井川河川敷「トリムコース」
4. 会報・HP リニューアル  
会報「読まれる会報目指す・HPは開設後6年になりリニューアルをします

## 第31回県下交流会参加について

**日時** 7月1日(日)  
一関市役所前集合 午前7時20分  
平泉駅前元農協ストア前 7時40分  
**所** 北上市岩崎新田1-128-2  
「瀬美温泉」 ☎ 0191-73-7294  
**交通** 貸切バスと乗用車でいきます  
**アトラクション** 一関レディースさんと合同で「くるくる音頭」を踊ります。浴衣準備できる方は持参願います。

## 5月例走会

6月例走会は3日午前6時から開催しました。当番(小野寺)より5月28日逝去された亀谷名誉会長のご冥福を祈り黙祷。7月1日の県下交流会の参加状況の報告をしトリムコースをそれぞれ周回しました。



参加者  
菅原楯夫 関野吉美 千葉健一 小野寺富士子  
平澤和則 持館守也 氷室一彦 千葉丈夫  
田道イク子

当番 小野寺(富)

## 3回目となった銀河100K 6月10日

私の中で「毎年の恒例行事」となってきた今大会は参加三回目となった。今年はスタート時から肌寒く、80km地点前後の山中では雨が降り続く、あいにくの天気。がゴールが近づくにつれ、青空も見え始め、折れそうな心に希望が見えてきた感じがした。スタート前「仕事疲れ」を少しだけ気にしていたが、今年も無事に完走することが出来た。年々、タイムが悪くなってきているのでいつの日にか「サブ10」を目指し、練習に励もう。今年100km走ったことよりも、翌日から普通に仕事に行った自分が凄いなと思った(笑)。  
松本守仁 記



## 記録 100K

松本守仁	180位	11:11:21
菅原孝一	250位	11:36:17
千葉賢	584位	13:29:23
浅沼善治	73.3k 関門	10:35:00
小野寺富士子	70k 関門	10:19:00
10K 小野寺恒彦	16位	56:59

## 弔辞

先生は市内の中学校長を退職後、昭和四十六年に一関楽走会を設立し、初代会長、名誉会長として当会のリーダーとして携わって来られました。昨年五月、一関楽走会創立四十周年を迎え、私たちは、先生が入所されている施設を訪問し満百歳のお祝いをさせていただきます。先生ご夫妻と一緒に記念写真を撮りました。お別れの際には車椅子から私たちに、こやかなほほ笑みを贈って見送られていた思いが残っています。この記念撮影が私たちに最後の別れとなりました。

先生の歩みは、市民の皆様とともにスポーツを通じた健康マラソンでした。先生のおかげで、楽走会からは多くの健康なランナーが巣立ちました。そのほかにも、体育振興や地域のスポーツ団体の育成にも関わり、その結果が、第一回岩手日日文化賞、平成四年市政功労者に推されたのだと思います。

先生は、自ら健康のためにも生涯ジョギングを続けられ、私が八年前自宅にお伺いした際に、走行距離は十三万キロ(地球を三周と四分の一)を超えていると話されておりました。また、走るの「自分自身のため」、「競うこととはしない」、「疲労回復のため」、「入浴、寝酒、十分な睡眠」を心がけていると述べておられました。

健康マラソンを実践し百歳の長寿を全うした先生は一関楽走会の誇りです。先生は、温厚な性格の持ち主であり、常に前向きな心を持ち、争いは好まず、責任を持ち、言葉には威厳があり会員のまとまりがありました。一関楽走会はずなわち亀谷一男先生そのものであります。

今後、一関楽走会を引き続き、地域社会とともに先生の一関楽走会魂と健康な体の維持を目指して、まいりたいと思っております。  
亀谷一男先生心安らかに眠り下さい。

平成二十四年六月一日

一関楽走会会長 氷室一彦